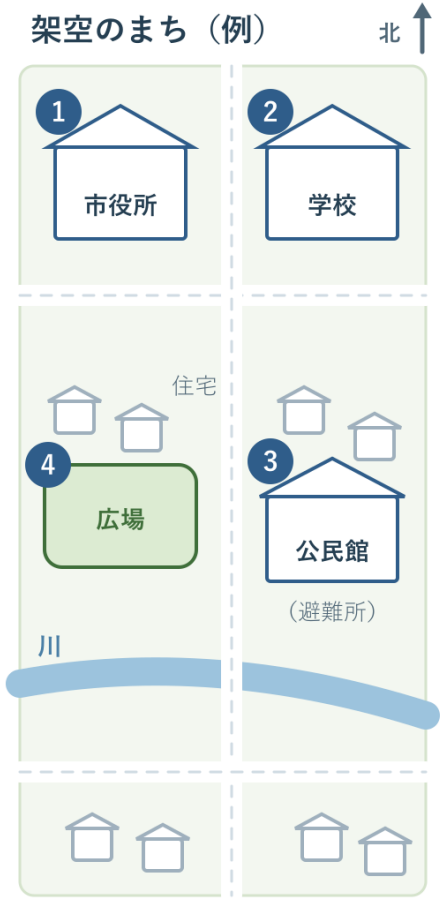
多文化共生のまちの工夫（架空の町）

文化や言葉のちがう人々が同じ地域で暮らすとき、どんな困りごとと工夫があるか



1 市役所・町内会のお知らせ

- ごみの出し方などを、うまく伝えられるか心配
- お知らせの日本語がむずかしくて、よく分からない

以前から住む人　外国から移り住んだ人

工夫　やさしい日本語と、いくつかの言語で書く。絵や記号も使う（例：ごみの出し方）

2 学校の給食

- みんなで同じ給食を楽しみたい。何に気をつければいい？
- 習慣で食べない食材が入っているか知りたい

以前から住む人　外国から移り住んだ人

工夫　材料を絵や記号で示した献立表を配る。食材を選べるようにする工夫もある

3 災害のときの避難所

- いざというとき、近所の人みんなで助け合いたい
- 地震のとき、どこへどう逃げればよいか分からない

以前から住む人　外国から移り住んだ人

工夫　避難の情報を、いくつかの言語で出す。防災訓練にいっしょに参加する

4 広場の祭り

- 祭りの担い手が減っている。いっしょにできたらうれしい
- 地域の祭りに参加してみたいが、やり方を知らない

以前から住む人　外国から移り住んだ人

工夫　準備からいっしょに参加する。それぞれの地域の文化を紹介し合う

ちがいを認め合い、同じ地域の住民としてともに暮らす（多文化共生）。どちらの人にも、困りごとと願いがある。

※ 架空のまちと場面。特定の国・地域・宗教の人々を表さない。吹き出しは考えるための例で、思いは人によってさまざま。